



タイトル	変見自在 朝日は今日も腹黒い
著者	たかやままさゆき 高山正之
出版社	新潮社
発売日	2016年10月15日
ページ数	220頁

週刊新潮の巻末に「変見自在」という1ページのコラムがある。本書は、週刊新潮の2015年7月～2016年7月までの記事をまとめたものである。

このコラムに人気があるのは、

- ・読んでいて「へー」と驚くような通常のマスコミでは知らされない事実の裏側を知らせてくれる。
  - ・左翼勢力や中韓にきびしい見解をもっている。
- などである。



国民の怒りによって遂に自白から謝罪に追い詰められた朝日新聞社、その「従軍慰安婦」30年誤報放置事件は、マスコミの報道姿勢の再検討を不可避とするのみならず、日本学歴エリートたちの存立自体を危うくする事態にまで発展しつつある。その間、日本の識者たちによって、新聞・雑誌・週刊誌上、こちら側に付けられた朝日のマーカーを総ざらいすれば次のようになる。

「インテリの新聞 リベラルの牙城 権力チェック機能の可否 自己正当化 内部チェック機能不全 独善的体質 左傾偏向報道 イデオロギー報道 非謝罪体質 責任転嫁気質 東京裁判史観 日本悪玉論 自虐史観 自国弱点ご注進ジャーナリズム 反日イデオロギー 日本人非難 国益観念欠如 戦前ドイツ賛美 冷戦期反米容共 ……」等々である。

文脈を見ると判り易い。

- ・インテリの新聞、リベラルの牙城なのだから頑張って立ち直り、権力チェック機能を果たして欲しいという好意的なものから、
- ・取材の甘さや編集局の問題を指摘するもの。
- ・独善的で左に傾斜しすぎたのではないかと、
- ・イデオロギー中心で自己絶対正義を信じ、率直に謝罪できない体質なのではないかと、これまでの報道

姿勢を批判するもの、

- ・東京裁判史観を引き摺ったままで、とにかく日本を悪玉にしようとする。
- ・戦前はナチス賛美、冷戦期は共産主義国寄りのスタンスを通し、冷戦後は反日に特化して日本の弱点を東アジア反日諸国にご注進する、
- ・自虐史観で反日イデオロギーに加担し、日本人非難を旨として、国益観念が欠如している、と歴史的経緯に遡って列挙するものもあった。

これらのマーカーを総ざらいし、向こう側の朝日新聞社の根拠に迫れば次のようになるだろう。すなわち、「朝日新聞社は日本のインテリの代表的存在であり、国内では中華思想で自己中心的、国外では事大主義で追従的である」。

ゆえにたとえ誤報を出しても、自己絶対主義で国民に進んで謝るつもりはなかった、他の新聞どもも、華夷秩序内の下位の存在だから同罪である、とみた。国外的には事大主義を貫き通す。朝日の事大主義の宗主は日本にとって常にマイナスとなる相手国や、日本の対立国と決まっている。その視角から日本と日本人を語れば自然に批判的になり、国家権力をチェックし、市民を善導している機関のように擬制が出来るはずだと、こうなるだろう。・・・・・・（“朝日よ、先見性なくば正義は取れず” 筑波大学教授古田博司「正論」平成26年11月号）

さっそく目次を見てみよう。

はじめに

## 第1章 朝日の正しい詠み方教えます

- 米国は「原爆で日本人虐殺」を誇りに思っている
- 朝日に載る「権威」はここまでウソだらけ
- 米国が自在に憲法改正できる理由
- イランが憧れる日本の「強さ」とは
- 朝日が絡む学者はロクなもんじゃない
- 白人による「日本は残酷」はバカの一つ覚え
- 沖縄はなぜ“あの国”に似るのか
- 海外生活をハナにかける特派員のデタラメ
- やっぱり朝日の社説は奥が深い
- 新聞が「投書欄」を巧みに使っているのはご存知？

## 第2章 本当にズルい国を見分けるために

- 「8月9日」を米国人はどう思っているか？
- 安倍談話に噛みつく輩の本音
- 「日中もし戦わば」を朝日が解釈すると・・・・・・
- 真珠湾を飛んで初めて分かったこと
- 日本ほど難民対策に心を砕いた国はない

朝日は天にも見放されている？  
ハリウッドが作る「毎日映画」のあさましさ  
自国の黒人兵を皆殺しにした米国の大罪  
「あの国」で金儲けを企むのはお止めなさい  
英国の狡さをもう少し認識しませんか

### 第3章 朝日を書かない本当の理由

京都に原爆が落ちなかった本当の理由  
今こそ真珠湾攻撃から学ぶこと  
フランスが IS の標的になった真相  
アジアで期待が集まる日本の“海軍力”  
「日本はダメになった」と言っているのは日本人だけ  
そのユダヤ人は恩を仇で返した  
朝日が捻じ曲げた中越関係の真実  
これがフィリピンと日本の「正しい関係」  
だから朝日を読むのは止められない  
イランとイエスの歪んだ関係

### 第4章 お隣の国も相変わらずで・・・

日本人にあって韓国人に絶対ないもの  
裁判所が認めた「米国の権威は他国の主張を超える」  
切り取った耳で首輪を作る米国人  
羽田空港に意外な使い道・・・  
キリスト教徒はどうして意地悪なのか  
「支那」と言って何が悪い！  
「海外留学」で学ぶことは泥棒  
トランプよ、失禁には気を付けろ  
今の中国は明に似ている

### 第5章 とかくこの世は嘘ばかり

フジモリ娘が大統領になれなかったのは  
聞いた話だけで記事を書くところなる  
今こそ零戦の素晴らしさを世界に伝えよう  
EU 脱退だけじゃない英国の悩み  
テレビでエラそうな奴ほど実態は狡い  
舛添が墓穴を掘った朝日の「発案」

白人は風呂ぐらい入れ！  
ならず者が世界遺産を申請する「華僑虐殺」  
「進化論」は白人の自己正当化にある  
ヒロシマの思いを邪魔している意外な人物

なかなか面白いので、幾つか拾い読みしてみよう。

安倍晋三を政治的に抹殺しようとした本田雅和。彼を裁く朝日新聞の第三者委員会に選ばれた長谷部恭男は朝日との約束通り、本田を無罪にした。その功で朝日に 1 ページの憲法論を載せている。彼は言う。「日本憲法は米国の贈り物」、「押しつけ憲法でも大切に」と。

「米と同じ憲法原理」だから「なぜ変えるのか」と見解も述べている。でも米国の法原理は躊躇わずに変えることだ。「なぜ変えるのか」ではなく「なぜ変えないのか」と言うところだろうが。

その長谷部が国会で今の安保法制は「勝手に解釈を変えたから違憲だ」とか言い出した。米憲法は死刑の合憲性につき平気で真逆の解釈を認めている。実態に即した解釈は自由にやっている。理不尽な中国が出てきた。実態に即した解釈をしてこそ米国憲法の理念に沿うことになるのではないか。

それにしても長谷部には困ったものだ。朝日に飼われ、朝日に都合の良い憲法論を語る。「<sup>ほうひ</sup>法匪」とは彼のための言葉だ。



安倍政権が唱える「積極的平和主義」がある。周りの東洋諸国が、人攫<sup>さら</sup>い（北朝鮮）、島泥棒（韓国）、海盜人（中国）でも、モーゼの杖のように彼らを叩くことが出来る。

東洋諸国がこのような悪の巣窟になり果てているのに、「朝日新聞社はインテリの代表で、国内的には中華思想、国外的には事大主義の私的善導機関だ」を、自社の根拠に据えることが出来るだろうか。東洋に宗主を見出そうとしても、嘘つき、泥棒、人攫いという、日本の対立国ばかりだ。（古田博司 前出）

周辺の「四夷八蛮」がそれぞれに中国を支配した経験を持つのに、一番近い「我が朝鮮だけは中原（中華文化の発祥地である黄河中下流域にある平原のこと）を支配できなかった。何と情けない国か」と儒学者の林白湖は嘆いた。理由はある。朝鮮が歴史に顔を出した途端、日本や中国に支配され続けた。

並みの国は戦争して奴隷を得るが、朝鮮は勝ったためしがないから自国民を奴隷にした。結果、世にも不思議な「自給自足的な奴隷国家が出来た」（黄文雄）。

奴隷は人口の 40% を占める。女も奴隷と似たような境遇で、日帝支配まで彼女たちは名も与えられず、男児を生むと両の乳房を露出する奇習に生きてきた。

資源も人材もない「見捨てられた国」の評判はあまり良くなかった。「民は無能で見栄っ張り、努力を嫌う」（ゴンチャロフ）。だから山野は荒れるがまま。この国をさらに貧しくした。「自らを改革する能力に欠けて」（イザベラ・バード）いるくせに気位だけは高く、

妬みは世界で一番強いときている。

格下の日本から独立を促されると中国に擦り寄って日清戦争の原因を作った。日本が勝って、朝鮮を独立させると、今度はロシアを呼び込んだ。嫉妬に加え、この国の生来の腰巾着根性が地域の不安定化を促し続けた。それで日本はロシアとも戦う羽目に陥った。

セオドア・ルーズベルトは太平洋を挟んだ日本について、「深刻な脅威と感じる」とアルフレッド・マハンに書き送っている。その日本が日本海海戦でロシアに大勝するのを見て、彼は1週間後に日露の講和を仕切ると言い出した。彼は「脅威の日本」がこれ以上強くないようロシアから一銭の賠償金も寸土の割譲もないポーツマス条約を押しつけた。彼は、「朝鮮を日本に押しつける」(C・ショー『朝鮮独立を破壊した外圧』)ことも思いついた。厄介な国を背負い込ませれば日本は困惑し、疲弊するだろう。事実その通りになった。国家予算の2割をつぎ込んで近代化してやったのに、感謝するどころか、逆に「千年の恨み」を口にし、今も日本人の神経を逆なでし続ける。

さて、沖縄は朝鮮に似ているという。かつての琉球王朝は北朝鮮と同じで、共産主義独裁を敷き、民を苦しめ、農地を荒廃させた。見かねた島津藩が介入し、悪政を廃し、民は喜んだ。明治維新後、鍋島公が県知事で赴任すると、琉球王は清に救援を乞い、英国にも直訴した。ハーグ万国平和会議に直訴した李氏朝鮮と同じことをその30年前にやっていた。先の戦争で米軍は沖縄を太平洋戦略拠点として総力を挙げて占領した。アマーコストはその重要性を「宝石」に譬えた。日本は懸命に守った。特攻を繰り出し、戦艦大和も出した。それを「捨て石にされた」と恨み言を言う。被害者意識は朝鮮のいう「七奪」より酷い。

第3代の沖縄高等弁務官ポール・キャラウエーは沖縄を「日本も羨む高所得地域にする」と金融を支援し、医療環境も改善した。しかし銀行が選んだ融資先は身内や地元の顔役だけ。いい医療品は日本本土にみな横流した。米国の善意は特権と腐敗しか生みださなかった。無能で見栄っ張りな努力もしない。そのくせ口では自治拡大を叫ぶ。キャラウエーは切れて「沖縄の自治など神話だ」といった。

気付けば日本は五輪を開くほど復活していた。「脅威の日本」の再来を見た米国はふとセオドア・ルーズベルトを思い出した。そうだ。厄介者は日本に押しつけよう。日本は困惑し、朝鮮の時と同じように疲弊するだろう。翁長は朴槿恵に似て、米国の期待によく応えている。

朝日新聞が夕刊1面に「KY」と落書きした大珊瑚の写真を載せたのはもう二昔前のことだ。写真を付けた降幡賢一の記事はよく覚えている。「日本人は落書きにかけては今や世界に冠たる民族かも知れない」、「80年代の日本人の記念碑になるに違いない。百年単位で育ってきたものを瞬時に傷つけて恥じない、精神の貧しさの、荒んだ心の……」

朝日の傲慢がじっとり滲む。勝手に犯人を日本人と決めつけ、しかも「落書き民族」と

ステレオタイプ化して見下す。新聞では禁じ手の「民族蔑視」表記だが、朝日を書く分には構わないらしい。世界的落書き屋となじるなら、その根拠を示すデータを付けるべきだろう。「オレがそう思えばそれが真実だ」は思い上がりが過ぎる。

珊瑚の「KY」落書きは朝日の連中であつたことに、社長の一柳東一郎はふんぞり返ってためにする噂だと罵り、嘘がばれると言いつし、悪あがきの末に完落ちした。で、くびが飛んだ。

朝日の連中は嘘を気にしない。「北朝鮮は地上の楽園」だと 10 年も嘘のキャンペーンを張った。本田勝一の連載「中国の旅」も真実など薬にするほどもなかつた。だから、たかが嘘くらいで社長の首が飛んでいた日には社長は社員食堂のメニュー並み。それこそ日替りになっちゃう。

なんか対策をと考えているうちに本田雅和がやらかした。慰安婦の嘘に乗った NHK の番組を「安倍晋三、中川昭一が改変させた」と大上段でやった。中身はいつもと同じに取材無し、証拠なしのでっち上げだった。不幸な社長は秋山耿太郎だった。状況は一柳の時より深刻だが、さすがに耿太郎だった。必殺「第三者委員会」を思いついた。社外有識者の判断に委ねたい。事態を明らかにし、厳正に処分する。で、秋山がカネを出して選んだ委員が、まるで中国人の丹羽宇一郎、憲法 9 条で食っていく会の長谷部恭男、偏向日弁連。第三者でも公正でも何より有識者でもない。でも世間はちょろい。看板文句に引っかかって疑問を持たなかつた。75 日後に出た結論は、朝日は廃刊しなくていい、秋山は継投して良い、嘘を書いた本田も「取材が不十分なだけ」でちゃん。以降、橋下徹 DNA 事件も、東電福島の大脱走の嘘も、吉田清治の嘘もこの朝日新聞お抱えの第三者委員会でしのぎ切った。……。

現代日本は、「普通の国」ですらない。国民の権利としての国防という見地から見れば、世界中から嗤われている三流国家である。安保法制、国連安保理常任理事国という特別な地位にありながら自らルールを破る行為に出る中国の脅威など、どの案件についても問題の本質が国民に十分伝わっておらず、感情的世論が生まれがちなのは、報道が偏向しているからである。

日本のメディアは、自らへの批判には応えず、本質から離れた低次元の報道に走りがちなのは残念である。

朝日の社説は、政権憎しの感情論で書かれており、慰安婦問題で朝日がどれだけの許されざる過ちを犯したかは、まだけりはない。かつてあれほどの神通力を誇った朝日新聞の権威はもはや地に落ちている。参院選や都知事選を見れば判るように、若い人たちは進歩的な言論や左翼的言辞に対して極めて冷静で、進歩的な言論に世の中が飽き飽きしている状況が生まれつつある。民主主義は、健全なメディアによる情報伝達があつて初めて成熟することを朝日は特に心して欲しい。

2016.11.30